

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370400602		
法人名	岡崎共同株式会社		
事業所名	グループホームやわらぎ(ユニット共通)		
所在地	岡山県玉野市宇野2丁目13-10		
自己評価作成日	令和 5 年 3 月 23 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ランチピース		
所在地	岡山市中区江並311-12		
訪問調査日	令和 5 年 5 月 30 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人一人の時間を大切にした日々の生活・寄り添い援助。その人らしい生活を送って頂く。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナの影響で苦しい状況にも関わらず、管理者を中心に職員一丸となって笑顔で適切なケアに取り組んでいる事業所である。優れている点としてあげられるのは、次の2点である。まず、起床時間や食事時間など、利用者の生活スタイルに合わせて支援していること。二つ目に、かかりつけ医を継続利用することが可能であり、家族と連携しながら適切な医療を提供していることが上げられる。工夫点としては、排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄状況を確認し、日中失敗することなく、布パンツで快適に過ごせるよう支援していることがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	母体である会社の顧客第一主義の元、まず第一に入居者の方を考慮して行動し、人として個人を尊重し安心安全な生活で、入居者の視点から入居者の立場に立って援助していくよう職員一同努めている。	各棟の共有ホールに理念を掲示し、職員に周知している。新人職員には申し送り等で必ず言葉で伝え、実践できていない時は個別対応している。また、目に余る時は指導し、ミーティングで振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症により地域との関りが制限されており、出来て無い。挨拶をする程度。	現在もコロナの影響は続いており、近隣小学校や幼稚園との交流、回覧板も無くなっている。5月に入ってから地域住民との交流が少しづつ始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ほぼ出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症により地域との関りが制限されており、計画はしていたが出来て無い。	1月に予定していた運営推進会議はクラスターが発生したため中止となったが、3月に町内会長と家族代表に来てもらい、事業所内で話をした。6月には家族や地域の人にも参加してもらい、今年第1回目の運営推進会議を開く予定である。	今後、運営推進会議の定期開催、議事録の作成に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題点・疑問点などは電話・窓口への相談・指導を受けた。	介護保険の更新や家族から預かった主治医の意見書等を持参した際、事業所内の現状や介護サービス情報等を伝えながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修には参加、入居者への身体拘束は無いが、身体拘束委員会が十分に出来て無い。玄関も施錠する事が多くあった。	市主催の研修に職員が1～2名参加し、研修資料を各棟に配布・回覧している。3ヶ月に1回、事業所内研修を予定しているが、今年に入って開催できていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で援助を確認しながら、虐待の無いよう入居者のケアを把握し、職員全員で話し合い改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修には出来るだけ参加し、制度を認識し、相談・援助が出来る体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス利用開始の際は、契約書・重要事項説明書等を理解して頂ける様、お互いに充分確認しながら、不明な点については納得される迄説明させて頂いている。また個別に必要な同意についても行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で職員からの押し付けではなく些細な事でも自己決定が行える場面を提供し、ご本人からの思いを伝えて頂く関係を時間を掛けながら築いていく。ご家族からの意向も取り入れながら援助を行っている。	家族面会時や日常の様子等を家族へ連絡した際に、意見や要望を聞き取っている。面会に関する意見や要望が多くあり、コロナ収束に向けて、面会基準の緩和を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・リーダーは日々の申し送り等で、職員の意見を聞き、改善の必要があれば代表者と話し合い、会社とは月に一度の全体会議での検討を行っている。反映は出来て無い。	昨年度までは個別面談を実施していたが、今年度は実施できていない。日々の申し送りの中で職員から聞き取った意見や提案は、洗濯機や布団乾燥機の購入などに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	採用時に職員の家庭環境を把握し出来る限り勤務を考慮している。代表者は管理者・リーダーの報告のより職員の様子を把握し、個々の能力・家庭環境等に応じた勤務体制等も配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は個別面談を行う事で職員のモチベーションアップを図っている。職員の能力を把握し、能力に応じた研修に積極的に参加させ全員のスキルアップを図り、現場に負担の無い勤務体制を整えようとしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度も、勉強会・交流会議は無し。情報交換は電話等で行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様からご本人の性格・入所前の生活環境を聞いた上で、自宅生活をされたい方については出来る限り今迄の競り勝つに近い状態で		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までの経緯・生活リズムをお聞きし、家族様の要望に沿えるようにお話を行う。入居後にも疑問点・不安点がないか意見をお聞きする		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前と同じ生活に近づけるように援助を行い、日々の生活の中から状態を見極め、過介護とならないようにその方々にあった対応を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護だけの関係ではなく、家族により近い関係として暮らしを支えられるよう援助している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの影響により面会形式は変化しているが、面会時には本人様とお話をして頂き、スタッフは介入せず家族の時間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様への面会・連絡や親戚の方が面会に来られた際には対応していたが、コロナウイルスの影響により数が減っている	利用者が慣れ親しんだ公園へドライブに出かけたり、家族に年賀状を書いたりするなど、コロナ禍の中、今出来る可能な範囲内で支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が何かを一緒にできるようにスタッフ介入し、工作・体操といった援助を行っている。日常の会話でもスタッフが懸け橋となり話ができるように行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の家族様にも大きなイベントはお誘いを行い参加可能であれば一緒して頂いている。相談があった場合には対応し助言やお話している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様がどのようにしたいかを確認し、出来るだけご本人様の希望に添いながら援助を行っている	起床・食事時間の決まりごとは特に設けておらず、利用者の生活ペースに合わせて支援している。また、利用者の意思や意向のもと、何か実行する際は、自分で決断できるように声かけしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に病院や施設の利用があれば情報提供書を頂き、利用が無ければ本人様・家族様より聞き取りを行い把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前に生活リズムの聞き取りを行い、日常生活の中から本人様の残存機能を把握し、その方々に合う対応を行っている。不安な場合には家族様に連絡し相談・お話しをして頂く		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様・ご本人様の意見を聞き、カンファレンスで職員間の話し合いを行い反映させ介護計画を作成している	カンファレンスの中で意見を出し合い、まとめたものを家族に渡し、意見等が反映されたケアプランを基に介護計画を作成している。ケアプラン作成時、利用者・家族それぞれの思いを大切にしよう心がけている。モニタリングは3～6ヶ月毎に各棟の計画作成担当者が行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化を記録に残し、職員間での情報共有を行い、業務に反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の生活リズムに合わせ、生活して頂き食事形態・内容を変更している。入浴ができない時には足浴を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの制限のあるなか、看護学生の実習の受け入れを行った		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医への報告書を作成し、ご本人様の状態を充分把握して頂けるよう努めている。必要によって往診をして頂いている	ほとんどの利用者が入居前からのかかりつけ医を継続している。基本、家族対応としているが、対応できない場合は事業所が対応している。月2回、各利用者のかかりつけ医が訪問しており、突発的な場合は事業者側で対応し、受診状況等を家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の看護師や派遣看護師さんに状態を伝え、対応可能であれば対応してもらい、受診が必要な場合には主治医の指示の元、当施設の看護師で対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族様から状態報告を頂く事で、現在のご本人様の状態を把握し、今後の対応について話し合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアについての条件が整った場合に限り行い、終末期の同意書を作成したうえでチームケアが出来るようカンファレンスを行っている。状態の変化があればその都度見直している	契約時、重度化した場合の対応等について、家族に説明している。重度化した場合は、主治医・家族・管理者・ケアマネージャーで話し合い、方針等を共有している。勉強会や研修の実施はこれからである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の変化を早期発見に努めているが、定期的な訓練は行っていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での避難訓練は行っているが、コロナウイルスにより災害訓練と火災訓練が1度ずつしか行っていない。BCPの作成を現在行っている	昨年、災害訓練と火災訓練を行った。事業所内訓練なので、地域の人には声かけしていない。事業所の備蓄品に関して、スペース的に人数分確保するのが難しく、何とか備蓄できないかと試行錯誤している。	備蓄品の確保、並びに地域の方の参加・呼びかけに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉には充分注意を図り、安心して頂ける声掛けを行っている。職員間での注意も行っている	声かけする際、声のトーンを下げたり、気分の高揚に合わせて、居室で話したり誘導したりしている。また、失禁した際、他人に気づかれないように処理したり、本人が落ち込まない声かけを行ったりしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの決めつけで動くことなく、本人様にどうしたいかを尋ね一緒に相談・決定を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活リズムに合わせ、生活して頂き食事形態・内容を変更している。関りの中からその人らしい生活が送れるように援助を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際には本人様に選んで頂き、化粧品を持たれている方には居室にて化粧をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備をしたり、作ったり楽しむようしている。得意な事を見極めて参加し、台所で出来る事もして頂いている	以前は利用者と一緒に調理していたが、4月から給食業者を利用している。また、弁当を頼んだり、テレビCMなどで流れているメニューを取り入れながら、食事が楽しくなるよう工夫している。6月には外食を予定している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録し、摂取量が少ない時にはご本人様が好きなものや栄養補助食品を使用している。水分量についても同様に記録し、摂取しやすい物を取って頂く		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けを行い、義歯を使用している方には毎晩洗浄剤を使用している。歯科往診での口腔ケアも行って頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用しながら、入居者1人1人の排泄リズムにあったような声掛け・誘導を行っている。便秘については食量・水分量に気を付け腹部マッサージを行っている。主治医の指示の元看護師による対応も行っている	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、日中は布パンツで過ごせるようトイレ誘導している。夜間は紙パンツにパッド、ポータブルトイレなど、個々に合わせて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用いる事でどれだけ出たのか把握し、水分チェック表をもとに乳製品を提供している。腹部マッサージや主治医の指示の元看護師により対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の希望が有れば、順番・時間を希望に沿える援助を行っている。派遣看護師に依頼し、入浴援助を行った	利用者の身体状況に合わせて、一般浴と機械浴を使い分けている。週2回の入浴を目標とし、毎回お湯を入れ替えながら、清潔を保っている。入浴を拒む時は、職員や時間を変えたり、声かけを工夫しながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の夜間の睡眠状況や、日中の様子を見て休息を取れるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服チェック表を用いて、職員と確認しながら提供を行い最後まで内服が来ているかどうか確認を行っている。薬のセットをしない人も確認し、何重にも確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリ等出来る事を継続しながら、出来ないことと決めつけず職員と出来るように援助を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスにより外出支援を行えていないものの、散歩やゴミ捨てなどの援助を行っている	コロナウイルス感染対策のため、積極的に外出できていないが、近隣を散歩したり、ゴミを出しに行ったり、公園へドライブに出かけたりしながら、少しでも気分転換できるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所で管理しているが、数名の方についてはご本人様で管理されており、買い物の際にはご自身の財布から支払っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個別の電話はないものの、ご家族様からの連絡があった際やスタッフが連らした際にはご家族様に皇太子お話ししている。また不穏時にはご家族様と電話する事で安心感を持って頂く。個別で携帯電話をお持ちの方もおられる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	席の配置に注意し、より良い共用空間作りを行っている。季節によって飾りつけを行い心とむ空間を提供できるよう努めている。窓を開けその時期の風を感じて頂く	共有スペースは採光が良く、明るい雰囲気を感じている。また、アサガオの折り紙作品や作成状況の写真等が飾ってあり、身近に季節を感じられるように工夫している。利用者は洗濯物を畳んだり、お茶を飲んだりしながら、思い思いに居心地良く過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で好きな事をして頂き、話しやすい方とお話して頂いたり、本やパズル、塗り絵を見える位置に置き誰でも取れるように配置している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の家具をお持ち頂いたり、家族様の写真を飾ったりと過ごしやすい環境づくりを行い、必要によっては畳の設置を行っている。	転倒リスクが高い利用者や畳に馴染みのある利用者は、フローリングの上に畳を敷いている。また、家族と相談の上、転倒防止のために、センサーマットを設置している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活ができるよう、わかるように見える化を行い表示をしている。スタッフが関り過ぎないように危険な場合のみ介入している		